

循環器病に対する予防について

1 現状と課題 【健康いわて 21 プラン(第3次)より抜粋 (○現状 ●課題)】

ア 脳卒中(脳血管疾患)・心疾患の年齢調整死亡率の低下

- 令和2年の本県の脳血管疾患の年齢調整死亡率は、都道府県別には男女ともにワースト1位。
- 令和2年の本県の心疾患の年齢調整死亡率は、男女ともにワースト6位。
- 脳血管疾患及び心疾患の予防に効果がある減塩を始めとする食生活改善及び歩行等による生活活動量増加等の各種対策に総合的に取り組むことが必要。
- 65歳未満の若年者層から既に全国よりも脳血管疾患の年齢調整死亡率が高いことから、若年者層への予防の働きかけが必要。

イ 高血圧の改善

- 令和4年度の本県の20歳以上の高血圧の者の割合は、男性21.7%、女性20.4%となっており、また、収縮期血圧の平均値は、男性128mmHg、女性125mmHgと、140mmHgに対して低い状況。
- 高血圧は、脳血管疾患や心疾患などのあらゆる循環器疾患の危険因子であり、その予防のためには、血圧の適正化が最も重要、特に、家庭血圧(家庭における日常の血圧測定)が重要視されており、この普及を図ることが必要。

ウ 脂質異常症の減少

- 令和2年の本県のLDLコレステロールが160mg/dl以上の者の割合は、男性11.2%、女性11.6%となっており、全国(男性13.8%、女性13.9%)に比べて低い状況。
- 脂質異常症は虚血性心疾患の危険因子であり、LDLコレステロールが高いことは、脂質異常症の重要な指標とされている。本県は全国に比べて低いものの平成28年度から増加傾向にあることから、LDLコレステロールが160mg/dl以上の者の割合の低下に向けた取組が必要。

エ メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少

- 令和3年度の本県の40歳から74歳のメタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合は、男性44.4%、女性15.5%となっている。また、年齢階級別にみると、男性は40歳以降、ほぼ40%前後で推移していますが、女性は、加齢とともにその割合が増加。
- メタボリックシンドロームと循環器疾患との関連は深く、脳血管疾患や心疾患等の重症疾患の発症リスクが非常に高まることから、メタボリックシンドロームの該当者及び予備群を減少することが重要。

オ 特定健康診査受診率・特定保健指導実施率の向上

- 令和3年度の本県の特定健康診査の受診率は58.0%で、全国(56.2%)よりも高い状況にあるが、国の特定健康診査等基本指針に掲げる70%に対し低水準。
- 本県の令和3年度の特定保健指導の実施率は21.5%で、全国(24.7%)より低く、国の特定健康診査等基本指針に掲げる45%の半分にも達していない。
- 高血圧、脂質異常症、糖尿病等のリスク保有者の早期発見のため、特定健康診査の受診率及び特定保健指導実施率の向上が必要。
- 特定健康診査後のリスク保有者のうち医療機関未受診者への受診勧奨及び治療中断者への治療継続を促す取組の強化が必要。

2 県の主な取組

(1) 生活習慣の改善などの普及啓発・実践運動

ア 岩手県脳卒中予防県民会議運動の推進

「脳卒中死亡率全国ワースト1」からの脱却と健康寿命の延伸を目指し、平成26年7月に「岩手県脳卒中予防県民会議」を設立。毎年、県民大会を開催し、脳卒中予防及び生活習慣の改善に係る普及啓発を行うとともに、会員の自主的な取組を促進するなど官民が一体となって取組を推進。

イ 「いわて減塩・適塩の日」キャンペーンの実施

県民会議・県民運動の取組では、県民一人ひとりが塩分摂取と健康について考え行動する日として、平成27年7月から毎月28日を「いわて減塩・適塩の日」として、県内スーパー等で減塩メニューの試食やメニューの配付等を実施するとともに、街頭や健康づくりイベント等、地域住民が多く集まる場所でキャンペーン活動を実施。

ウ 健康的な食事の推進

管理栄養士、保健師等を対象とした「健康的な食事推進マスター」の養成及び食生活改善推進を核とした健康的な食事の地域普及を図るとともに、主食・主菜・副菜を揃えたバランスよい食事をサポートするため、民間小売事業者との連携により健康的な食品の選択や購入ができる環境整備を促進。

また、給食施設における適切な栄養管理や利用者への栄養教育を充実させるための研修等を実施。

【新規】野菜摂取量増加に向けた取組を通じた食生活改善サポート事業（ベジメータ®を活用した働き盛りからの健康づくり支援）

エ 禁煙・受動喫煙防止対策の推進

喫煙は、がんを始めとする様々な重症疾患の危険因子となることから、喫煙率の減少、分煙化・禁煙化等に取り組んでいるが、いずれも目標の達成率は低い状況にあり、あらためて喫煙対策の強化が課題となっていることから、禁煙支援マスターである保健所長による企業等の喫煙防止担当者に対する禁煙・防煙リーダー研修会の開催、地域における禁煙・防煙教室の開催等を実施。

また、改正健康増進法の令和2年4月からの全面施行に伴い、施設の管理者等に対する受動喫煙防止対策の徹底を推進。

オ 県民の健康づくりに向けた取組支援

県民の平均歩行数アップを目標に、安全で楽しく歩いてプラス2000歩の実践が可能な魅力あるウォーキングコースを一般県民、市町村、学校、事業所等から広く募集。さらに盛岡大学地域連携室の協力を得てマップを作成し、いわて健康情報ポータルサイトで公開。

【新規】「いわて Vitality (バイリティ) ウォーク」の実施（住友生命との包括連携協定に基づく事業）

カ 健康経営の推進

働き盛り世代の健康づくりを推進するため、健康経営に積極的に取り組む事業所等を「いわて健康経営認定事業所」として認定し、認定事業所に対しては県や保険者等が連携してその取組を支援。

また、健康づくりの取組を行う事業所を広く募集し、優良な事業所を表彰するとともに、その取組内容を広く紹介することにより、健康経営の更なる普及を促進。

【新規】いわて健康経営アワードへの「脳卒中予防対策特別賞」の新設

キ 血圧管理サポート事業

脳卒中の最大の危険因子は高血圧であり、働き盛り世代は高血圧の好発年齢でもあることから、いわて健康経営認定事業所の従業員への血圧計貸与を通じた血圧管理を支援するモデル事業を実施。

ク STOP MIキャンペーンの推進

心筋梗塞の前兆の症状等について知ってもらい、前兆を感じた方に早期の受診を促す「STOP MI キャンペーン」を推進。

(2) 特定健康診査受診率及び特定保健指導実施率の向上

脳卒中や心疾患などの要因となる高血圧やメタボリックシンドローム等を早期に発見し、治療に結び付けるための特定健康診査受診率及び特定保健指導実施率の向上に向けて、指導従事者対象とした研修会を開催

(3) 脳卒中登録事業及び心疾患登録事業の実施

県内の脳卒中患者及び心疾患患者の発症と経過に関する情報を継続的に収集、保管及び解析し、疫学的分析により、疾病の要因を明らかにすることにより、脳卒中・心疾患予防対策の実施及び脳卒中・心疾患医療の一層の推進・向上を図ることを目的として、平成2年度から「地域脳卒中登録事業」を、平成28年度からは「地域心疾患登録事業」を岩手県医師会への委託により実施。